

地域おこし協力隊

厚真町で活動している地域おこし協力隊をご紹介します！

現在活動している協力隊〈12月末現在〉

農業▷10人 教育魅力化▷3人
起業型▷9人 協働型▷9人

農業支援員

ささき けんいち
佐々木 賢一さん

着任：令和6年4月(1年目)

出身：宮城県仙台市



—これまでどのような経験を積んできましたか？

幼いころから動物が好きだったため高校を卒業後は、トリマーを養成する専門学校に通い、トリミングの資格を取得しましたが、高校生のころからアルバイトをしていた飲食店の仕事が好きだったので卒業後も調理の仕事が続けました。その後は自動車部品の生産工場へ入社し、北陸地方工場の勤務を経て苫小牧市の工場へ異動になりました。

—農業を始めようと思ったきっかけは？

妻の実家がある江別市で、義理の祖父が農業を営んでいました。現在もビニールハウスが4棟あり、ミニトマト、ジャガイモ、ナス、スイカなどを育てています。実家に遊びに行った時に作物の収穫などを手伝いながら、夫婦で「農業を仕事にできたらいいね」と話していました。娘の名前が「莓香^{いちご}」なので、「イチゴ農家になろう！」と決めました。

—新規就農先に厚真町を選んだ理由は？

どの地域で農業を始めるかを探していたところ、妻がInstagramで厚真町のいちご農家さんとつながることができました。とても親切に農地の見学をさせていただき、農業を始めたいきっかけや地域おこし協力隊の話などを聞かせていただきました。妻の親戚もいるため、親近感がある厚真町に決めました。

—厚真町ではどのような活動をしていますか？

農家でビニールハウスの設営作業を手伝い、研修農場ではイチゴやホウレンソウの生産管理のほか、農薬や生産副資材の在庫管理などについても勉強しています。これまでの工場勤務とは異なり、外での作業が多く気持ちがいいし、楽しいです。農作業のコツなどを学べるのでとても勉強になることが多いです。

—3年後の目標を教えてください。

農業支援員の先輩にナスをもらって食べたらとてもおいしくて驚きました。これまでの調理師の経験を活かして、今度は調理師ではなく生産者として、消費者の方に感動を与えられるような作物(イチゴ)を届けたいです。

厚真町とみなさんの関係をつなぐウェブサイト「あつまのおと」では、地域おこし協力隊の情報はじめ、町の「ヒト・コト・モノ」、「挑戦と出会い」の情報を発信しています。



発表します！
将来の夢

厚真中央小学校6年

あらかやま ふうな
荒山 楓奈さん

ひなた ととむ
日向 灯さん

獣医師
楓奈

ドラえもんを創る
XT

建築家
章臣

医者
奏

建築家
悠成

ながおか あきおみ
長岡 彰臣さん

はたやま かなた
畑山 奏多さん

にし ゆうせい
西 悠成さん